

蔵田が関東C制す

蔵田, 菊澤, 徳江, 田中がインカレ選手権出場権獲得

去る一二月一日に茨城県里美村「プラトールさとみ」で関東学生選手権(関東インカレ)が行われた。東工大OLTからはブレセラ通過者・免除者である八人が出場した。また当日は今年度コーチの三人がオフィシャル業務にあたった。

男子選手権クラスでは並みいるライバルを押しつけて蔵田真彦選手(四年)が優勝。二位の佐々木良宜選手(筑波大)に三分あまりの差をつける圧勝だった。東工大の選手が関東インカレで優勝するのは初めて。入賞は九八年の森哲博さん(一八期)以来。七位は徳江勇樹選手(三年)が入った。六位とは八十秒あまりの差で惜しくも入賞を逃してしまった。

また、関東インカレの上位者には三月に行われるインカレの選手権クラスへの出場権が与えられており、東工大からは上位二四人の通過枠に蔵田、徳江の他に菊澤恵三選手(四年)が一六位で通過した。また、二六位だった田中淳一選手(三年)は当日は涙をのんだものの、後日繰り上げて通過が決定した。

インカレの選手権クラスの出場枠が前年までの九十人から六十人に削減された

つばめ会会報

Slope

東工大OLT OB/OG会 会報

関係で本セレの通過人数が少なくなっており、その中の四人という通過人数は東大の八人、早稲田大学の五人に次いで三番目に多い。なお、この数年での男子の通過人数は〇一年が六人、〇〇年が四人、九九年が三人。

参加者のコメントなどの詳細な記事は次号に掲載する予定です。
確実に厚くなってきている選手層
本セレ、冬合宿が終了したこの時期、インカレまでは残すところあと二ヶ月。インカレ団体戦の選手権クラスのメンバー争いも熾烈をきわめる時期である。今

年は、本セレを通過したメンバー以外にも昨年の団体戦のメンバーの斎藤(三年)、夏のクラブカップの一走で好走した藤野(四年)、成長著しい前田(二年)らと団体戦入りを狙える選手を多数抱えており誰が代表になるかは全くの未知数と言える。
本セレは健闘した。通過人数自体は減っているものの通過の割合は変わっていない。昨年が九〇人中、東工大は六人。今年は六〇人中の四人である。しかし上位通過が多い。優勝した蔵田を筆頭に徳江が七位、菊澤が一六位、田中が二六位である。三六位の井ノ川(四年)、三八位の前田も例年ならば通過圏内であり、確実に層は厚くなってきている期待がもてる。ちなみに昨年の本セレは蔵田が一九位、菊澤が二六位、山根が三〇位、斎藤が三四位、藤野が三八位(以上、通過者)だった。OLT会全体の層が薄くなってきていることを差し引いても健闘は明らかだ。

これから選手たちは一月のジュニアチャンピオン大会、二月の関東リレー大会、早大OC大会、直前合宿を経てインカレに向かっている。二月には学期末試験もあり、本業の方も忙しくなる。
例年、インカレでいいところまではいくのだがメダルに手が届かない東工大OLT。今年は本セレで筑波大を抜いての関東三位の通過人数、慶応大学との対抗戦も快勝、と、ここまでは順調にきているように見える。なかなか届かない表彰台へ。選手たちの最後の踏ん張りを応援したい。(二〇期 川俣智)

西日本大会で 円井さん入賞

一月二四日に兵庫県で行われた西日本大会(主催・JOA「日本オリエンテering協会」)で円井基史さん(一九期多摩OL所属)がM21Eクラスで五位に入賞し、全日本大会の出場権を獲得しました。優勝は東工大〇〇年度コーチの松澤俊行さん。円井さんの全日本出走権の獲得は昨年に続き二年連続。昨年は福井県での東日本大会M21Aクラス優勝での獲得で、JOA主催大会での選手権クラスでの獲得は初めてとなる。
円井さんの話「全日本大会では十位以内が目標」

つばめ会会員の皆様 こんにちは。

つばめ会総会・懇親会と大きなイベントが続きました。OLTT杯や合宿を運営して下さったみなさん、

りません。この場を借りてお礼申し上げます。

つばめ会合宿も、今年若いや会員のご夫人方が来てくださったので、参加されたみなさんは例年以上に楽しめたのでは、と思います。先日、つばめ会合宿に関するアンケートを実施しましたが、今回の会報に

に参加された方も多くいらつしやいました。今回はOLTTヘッドコーチの倉澤

結果が載っています。今後良いアイデアがあれば、ぜひ教えていただければ幸いです。次回も今回以上に幅広い世代・メンバーが集まることを期待しています。

いですが、幸せな報告をお待ちしております。

また、渡辺純さん(二期)や鰐部行教さん(二期)のご結婚も嬉しいニュースですね。鰐部さんの披露宴ではつばめ会から祝電を贈らせていただきました。これからも会員の皆様の結婚ラッシュが続くと思

幹事長の言葉

一六期 奥田 健史

つばめ会会員のみなさんも、大会で現役学生に負けない活躍を見せていますね。インカレシヨートの前日に行われた全日本リレー選手権大会では、千葉県男子代表の松澤俊行さん(元コーチ)が準優勝、長野県女子代表の松澤理子さん(二期)が六位入賞し、表彰台上に登りました。他にも、川合勝久さん(一期)、倉澤勝美さん(二期)が県の代表選手として出場されています。最近、世間とは逆に？つばめ会と東工大OLTTでは明るい話題が続いています。これからも嬉しいニュースが続いていくことを願っていますね。それでは、またみなさんとお会いできることを楽しみにしております。

角田浩二、村田達司(以上二期)、池野靖行、中川隆義(以上三期)、羽根靖晃、平松宗太郎、田中宏樹、小間聡、鰐部行教(以上四期)、斎藤玲彦、長坂俊郎、武田幸子(以上五期)、高倉健、和田雄一郎、奥田健史(以上六期)、岸川智、石原幸吉(以上七期)、河合剛、當銘直告、村田素久(以上八期)、粕谷泉、斎藤勝晶、円井基史(以上九期)、川俣智仁、多見剛、倉澤勝美(以上二期)、浅野剛司、岡部健志(以上二期)

パブ営業開始

東京工業大学すずかけ台キャンパスに学生会館設立と同時に食堂が新装開店した。食堂の二階は夕方五時から六時まで居酒屋(パブ)として営業、学生や教官、大学職員などで賑わっている。

OLTTのすずかけ台キャンパスの現役・卒業生はこれを機にすずかけ台トレを開始、すでにパブで懇親会を二度開催した。長津田には円井さんという速い人がいるので、OLTTにとつて意外なところにもパブ効果が現れるかも？

2002年度つばめ会会計報告

収入	単価*口数	
会費(社会人)	3,000*27=81,000	
学生会費(学生)	1,500*9=13,500	
利息	18	
合計	(a)94,518	

支出		
広告	30,500	
差入	4,800	
レ送付	680	
電祝	2,058	
杯賞品	7,528	
印刷	1,000	
差入	1,000	
告葉	5,315	
書	6,618	
計	(b)59,509	

繰り越し	135,306
前年度繰り越し	35,009
(a) - (b)	
来年度繰り越し	170,315

会費納入のお願い

会計・円井基史 (一九期)

会員の皆様には、会費の支払いをよろしく願っています。

会費：社会人 三千元、学生千五百円

払い込み方法は 郵便局にて振込。記号10020

口座番号70858191
みずほ銀行(0001)
にて振込。店番号145口
座番号1760811 会
計担当(円井)に直接支払
う。総会・合宿、大会会場、
東工大すずかけ台キャンパ
ス等をご利用下さい。

前年度会費納入済みの会
員(一〇月三日時点)(敬
称略)高橋秀行(二期)、
井上洋一(五期)、浅野昭、

全日本リレー 松澤好走、長野女子6位入賞



全日本リレーで入賞し表彰される松澤（二二期、前列右から二人目）ら長野県女子チーム【撮影・倉澤勝美（二〇期）】

各県代表で つばめ会員活躍

インカレシヨートの前日、一月三日に長野県の菅平高原で全日本リレー選手権大会が開催されました。この大会は、各都道府県の代表が各クラスごとにリレーで争う形式。

つばめ関係者では、〇〇年度東工大コーチの松澤俊行さんが千葉県男子の二走、円井基史さん（一九期）が神奈川県男子の二走、川

合勝久さん（一〇期）が静岡県男子の四走、倉澤勝美さん（二〇期）現東工大コーチ（が長野県男子の四走、松澤理子さん（二二期、同）が長野県女子の四走として出場した。松澤俊行さんは一走一三位から二人抜き活躍をみせたもののチームとしては僅かに及ばず男子選手権で二位（一位は東京）、松澤理子さんはアンカーとしてチームを七位から六位に引き上げる快走を見せ、見事チームを入賞に導いた。

最後のインカレが終わって、「これからどうしよう...」と考えていた直後に長野県チームからリレーの誘いがあった私は非常にラッキーでした。これで当面の目標を得る事ができたわけです。

メンバーは全日本エリートの前木さん、インカレでは常に入賞していた憧れの存在の上松さん、01年度インカレ10位の蓬萊さんと、私より上手い人ばかりだったのですが、チーム内でトップとはいかないまでも2番手くらいの活躍をしたいと思って、今まで一番力を入れて準備しました。

そうはいっても直前までたいした結果が出せなかったので、2走と3走のエース区間は元木さんと上松さんに任せて、蓬萊さんは1走、私は4走を走る事になりました。足に自信がないからという単純な理由での4走という選択を後になつて大後悔する事も知らずに...。そして当日。心地よい緊張感の中レースが始まりました。1走はトップからかなり差がついて帰ってきた事もあり、入賞は無理かなあと想着、チームの順位には気をつけていまして。言い訳をさせてもらえば参加チームが多

全日本リレーの感想 松澤 理子（21期）

【手記】

さて私も運営側も混乱状態だったのです。

そんなわけで自分のチームの順位を知らずに走り出してしまつたわけですが、レース中盤まではかなりリラックスして走っていました。他県の選手に抜かれても、「今は自分のレースをするだけだ」と思っていました。でもレース中何回も北海道の選手とポスト周りで会ううちに、自分が4走であることの怖さにやつと気づきました。自分の走りがすなわちチームの順位に直結するというあたりまえの事実を、この展開にきてようやく肌で感じました。

自分の順位を気にしながらレジャーに戻ってくるのと、タッチの時点で7位、現在6位である事が判明しました。でもすぐ後には北海道の選手が迫ってきています。しかもビジュアル後は走れ走れのレッグが2つあるだけなので技術によるカバーもできず、ラストゴールは登り坂という追い込まれた状況でした。

他の人がもっと早く帰ってきてくれればこんな事にはならなかったのと思うのと同時に走りこみが足りなかつた自分を呪いました。ラストゴールで一度北海道に追いつかれたときはもうあきらめて歩きたいとも思いました。でも20メートルくらい先の会場からの声援が響いてきて、ここで歩いたら応援してくれる現役にもカッコつかないし、とか、「負け犬にはならない」とか、「ごちやごちやと考えながら走り、最後は「応援で足が動くって本当にあるんだなあ」とほんやり思いながら、6位でゴールしました。

表彰されたのはもちろんうれしかったのですが、現役の頃、インカレの団体戦ではどう頑張っても応援することしかできなかった私が、今回は実際に走ってチームを入賞させる手伝いができて、もやもやしていたものが晴れた感じがしました。また、今度は自分の力だけで表彰されたいという欲が出てきてしまったので、とりあえず今後モオリエンターリングを続けていきたいと思っています。

蔵田、OLT杯 史上初三連覇

一〇月六日に第一四回東工大OLT杯が千葉県山武郡の「片葉の葦」で行われた。OLT杯が山武地方で行われるのは九七年の「両総用水97」以来。例年は六月下旬から七月上旬に開催されるが、大学の試験日程などが変更になったために、秋の開催となった。当日はまさにオリエン日和といった快晴で多くのOBもかけつたが、数日前の台風による倒木の影響で一部コースが変更され、またコースが変更されなかった部分でも倒木が目立つたなレースとなった。また、

外部参加とあわせて二百人あまりの参加者で会場は賑わっていた。OLT杯クラスでは蔵田真彦選手(四年)が三連覇を飾った。二位の徳江勇樹選手に一分あまりの差を付けの大勝だった。三度の優勝は一六期の世古口裕史氏に並び最多タイ。三連覇は史上初。四年生の優勝も九六年の世古口裕史氏以来となった。

め杯は秒差の争いとなったが奥田健史氏が悲願の初優勝を果たした。二位は今年度コーチの倉澤勝美氏。しかし、今大会では全日本レベルのOBはつばめ杯に参戦せず京大大会に出た。図読みを開始しました。たまた「武蔵板附古墳群」であつたことは、恥ずかしくてまだ誰にも言っていない。また、僕は四月よりオリエンテリングから少し距離を置いて、自転車という新たなトレーニングに取り組んでいました。これにより果たして身体能力は向上したのか、また、航スピードに向上がみられ、シーズン本番への手応えを感じることができました。しかし、この自信がショーティンカレでの失敗につなが

新人クラスは北崎茂選手(一年)が制した。なお、飯村杯は女子部員がいなかったために行われなかった。MASクラス(従来のMBクラスから名称変更)は熊田信次選手(二年)が制した。副賞としてMF優勝の北崎選手には実行委員会からトリム一式が、準優勝の村上選手にはつばめ会からラップ時計が贈呈された。つば

二期の蔵田です。先日、千葉県は「片葉の葦」で行われたOLT杯において優勝することができました。僕は去年、一昨年ともにOLT杯を獲得しており、また最高学年である四年生というところで、他の部員からの挑戦を迎え撃つ立場にありました。当初は、正直なところ「若い者にはまだ負けん」とあまり負ける気がしませんでした。今年、早い段階から若手に著しい成長が見られ、また、レースが近づくにつれなかなか威勢のいい声も聞こえてきました。今後を担う人間に気が感じられるのは頼もしい限りですが、僕も負けるわけには行けません。こちらこそそれなりの事前準備の必要を感じ、例えば、例年よりも早い段階から地

場、当日は全国から二十人以上のOBが集まったものつばめ杯の参加者は七人にとどまるなど、つばめ杯のあり方が問われるOLT杯にもなった。

やはり蔵田か
そう思わせる圧勝

今年のOLT杯も蔵田の優勝だった。見事と言っほかない。半年間OLを休めるといふ側面もありました。こつこともあつて、三連覇をかけたOLT杯は、僕にとつて例年にも増して重要なマイルストーンなものでした。レースは、小さなミスをいくつかしたものの、平坦でスピードの出るコースを気持ちよく走ることで、勝利を収めることができました。三連覇はOLT杯史上初ということ、うれしさもひとしおです。また、巡航スピードに向上がみられ、シーズン本番への手応えを感じることができました。しかし、この自信がショーティンカレでの失敗につなが

OLT杯の感想 蔵田真彦(4年)

- OLT杯の主な成績
- MA(OLT杯クラス)
- 1位 蔵田 真彦(4) 1:03:23
 - 2位 徳江 勇樹(3) 1:17:03
 - 3位 前田 裕太(2) 1:20:20
- TA(つばめ杯クラス)
- 1位 奥田 健史(16期) 1:23:04
 - 2位 倉澤 勝美(20期) 1:23:49
 - 3位 和田 雄一郎(16期) 1:41:14
- MF(新人クラス)
- 1位 北崎 茂 0:53:51
 - 2位 村上 諒一 0:58:52
 - 3位 北村 俊介 1:05:31
- MAS
- 1位 熊田 信次(2) 1:03:35
 - 2位 岡本 淳(4) 1:26:29
- OAS(つばめ会の上のみ抜粋)
- 1位 河野 岳史(16期) 0:49:00
 - 5位 世古 口裕史(16期) 0:53:27
 - 10位 石原 幸吉(17期) 0:57:46

め杯は秒差の争いとなったが奥田健史氏が悲願の初優勝を果たした。二位は今年度コーチの倉澤勝美氏。しかし、今大会では全日本レベルのOBはつばめ杯に参戦せず京大大会に出た。図読みを開始しました。たまた「武蔵板附古墳群」であつたことは、恥ずかしくてまだ誰にも言っていない。また、僕は四月よりオリエンテリングから少し距離を置いて、自転車という新たなトレーニングに取り組んでいました。これにより果たして身体能力は向上したのか、また、航スピードに向上がみられ、シーズン本番への手応えを感じることができました。しかし、この自信がショーティンカレでの失敗につなが

の優勝。蔵田は「体力的にかなり強化された部分はある」と、言う。半年のブランクの後のこの大活躍。蔵田の凄さを感じると同時に「やはり体力か」との念を強く持った。

筆者を含めて四年次に低迷・伸び悩む人が多い東工大でこの頑張りには恐れ入る。卒論を控えているが、果たしてー。

がるとは、その時思いもよ

優勝杯を手にするの同時に、来年度OLT杯実行委員長への任命を受けました。詳細については未定ですが、二二期一丸となつて部のトップを決定するにふさわしい場を提供したいと思ひます。現時点では飛びぬけた存在はあらず、優勝争いは混沌としており、なかなか白熱した戦いが繰り広げられるのではと、運営者は今から期待しています。勿論、つばめ杯も開催いたします。OBの方々も奮ってご参加ください。

最後になりましたが、運営してくださつた山根実行委員長を始めとした二二期の方々、どうもありがとうございました。そして、お疲れ様でした。

つばめ杯の感想 奥田健史(一六期) 寄稿

今回のつばめ杯は、事前のプロセスから当日のレースに至るまでいろいろと印象に残るレースでした。そこで、この場をお借りして、私が何を考えていたのかについて振り返ってみてみたいと思います。

当初の目標は、優勝ではなく入賞(二位以内)でした。円井君と太田さんは実力・練習量ともに別格なので、私が勝つのは難しい、と思っていました。ところが、2人と一〇月六日は京大大会にエントリーしており、つばめ杯を欠場することがわかったのです。これはつばめ杯を狙える千載一遇の機会だと思いました。こんな大チャンスは最初で最後に違いありません。入賞を狙うのと優勝を狙うのでは、モチベーションも違ってきます。クラブカップ七人リレーや全日本リレー千葉県セレクションのときよりも、事前準備に気合いが入っていたことは確かです。九月の走行距離は久々に五〇キロを達成しました(偉そうに言える距離ではありませんが)。

場者も、誰が優勝してもおかしくない人ばかりです。下手をすれば、優勝どころかビリになってしまう可能性もあります。特に、和田君と倉澤君は強敵だと思っていました。和田君とは過去のつばめ杯で三回対決していますが、対戦成績は〇勝三敗で、私は和田君に一度も勝つことがありません。彼はつばめ杯では非常に勝負強いのです。一方、倉澤君は今年度のOLTのヘッドコーチで、かつ現役の選手としても活躍しています。最近の調子から考えても、最大のライバルは倉澤君であり、彼のほうが私よりやや有利かも、と考えていました。また、トップスタートになってしまったので、スタート順も恵まれているとは言えません。

ただ、今回のテレインが「片葉の芦」であることは、私にとって大きなアドバンテージです。幸いにも、九月初旬に行われた全日本リレー千葉県セレクションでこのテレインを走ったばかりでした。地図と現地の通行可能度のギャップに苦しみました。そのときの経験が今回に活かれます。また、昔から「自分は山武なら速い」と、テレイン適性にも自信があります。そして、何より「つばめ杯を獲りたい」という想いは他の選手より勝っているように感じました。したがって、「自分の力を出し切れれば、つばめ杯を獲れる」と思っていました。

さて、前置きが長くなりましたが、レース本番について書いてみることにします。序盤は負気っているのが自分でもわかりました。S1はアタックで隣接コイントロールへ吸い寄せられてパラレルエラー、12は辿っていた小径が途中でヤブの中に消えかかってもたつきました。ストレスがたまるレース展開でしたが、過去このような場面で私は動揺して自滅した経験が何度もあります。「長いレースだから、ある程度のミスが起ころうとするのは仕方がない。ヤブのきつさに苦しんでいるのは自分だけじゃなくて、他の選手も同じはずだ。」と割り切っていました。

その後は比較的順調に進んでいましたが、7・8はアタックで集中力を失って方向を90度エラーしてしまいました。長いレースは久しぶりなので、そろそろ疲れも出てくる頃です。ここが正念場だと思い、集中するよう自分に言い聞かせるとともに、リスクの少ないルートプランを心がけます。9・10は7・8・89を逆走するようなルートでしたが、佐々木さん・齋藤さん・和田君とすれ違いました。ループ部分に要する時間から考えて、このままいけばあの3人には勝てるかな、と思いました。倉澤君と川俣君には会いませんでしたが、別のルートなのだろうと思いい、あまり気にはなりません。そして、ついにラス前の10番に着きました。あとは走るだけです。通るつもりだった小径には地図上で×(通行不能)印が書いてありましたが、すぐ近くに小道があることを見つけました。この小道はヤブの中で途切れています。OLT杯クラスを走っている現役学生も通っているはずで、オリエン道くらいはできていたろう、と考えていました。レグ線自体が修正されており、もつと南に回り道をする必要があることには全く気がつきませんでした。

数分後、通行不能のヤブに囲まれて呆然としている自分がいきました。とはいえず立ち止まっていた時間も過ぎていくばかりです。右に見えている斜面を登って、ヤブが薄くなったところで再び斜面を降りることを決心します。通行不能ではないものの斜面もCヤブなので、決して登りやすくはありません。ヤブの中でもがきながら、「やつぱり俺はつばめ杯に縁がない男なのか?」と思いました。六年前のOLT杯でラス前ラスポで南北エラーを犯してしまい、四秒差で入賞を逃した記憶が甦ります。でも、だからこそ最後まであきらめるわけにはいかない、と思い直してゴールまで走りました。

ゴール直後、ものすごく悔しさを感じるとともに、このような自分に驚いていました。こんなことは学生るとき以来でしょうか。今回のつばめ杯は私にとって特別なレースだったのだ、と改めて思いました。しばらくすると、倉澤君がゴールしました。彼のスタート時刻を覚えていなかったのに、私は負けを覚悟していました。ところが、タイムを聞いてみると、私が僅かながら勝っているようです。その後も他の選手をゴールで待ちましたが、私のタイムに及ばないことがわかり、会場へ戻りました。速報が発表されて自分の優勝が確定したときは、嬉しさがこみあげてきました。私は大学一年生のときから昨年まで、毎年OLT杯に参加してきましたが、入賞したことさえ一度もなかったのですから。

実は、大学四年生のときの「ロマンズ坂」(年報)でも、最も印象に残るレースとして、インカレでもブレセレでもなくOLT杯のことを書いています。やっぱり、私にとって特別なレースなのでしょう。これからも、OLT杯・つばめ杯が現役学生やOB・OGに、きつかけ「や、モチベーション」を与えてくれる貴重な存在であり続けることを願っています。最後になりましたが、運営してくださった二期のみなさん、楽しいOLT杯をありがとうございました。

菅平インカレショート 東工大勢ふるわず A決勝進出一人のみ

一月四日に二〇〇三年度日本学生オリエンテリング選手権大会ショートデイスタンス競技大会通称・菅平インカレショート）が開催された。菅平高原での開催ということで、秋空のもと、スキー場や牧場によるオープンな高速にナビゲーションするという、ある意味ではオリエンテリングの醍醐味を満喫できるか？と期待されたが、当日は前日の全日本リレーからは打って変わって天気は恵まれず、積雪や降雪のある最悪のコンディションとなり、レースは大荒れとなった。積雪の影響でBファイナルと併設大会が中止に

なつた。今年は東工大は例年以上にインカレショートに参加者が多かっただけに特に一年生にとっては残念なことになってしまった。選手権の方は、プレッシャーが関東二位の躍進で、インカレショートでの活躍が期待された東工大勢だったが、エースの蔵田四



唯一Aファイナルに進出した蔵田だったが... 【撮影：倉澤勝美(二〇期)】

年)がAファイナルに進出したものの、そのほかの選手が不足を露呈する残念な結果でした。O.L.T全体としてもAファイナル進出者が一人だけという結果で、来年こそは自分がAファイナルに進めるように頑張りたいと思います。また、インカレはまだ残りあと三ヶ月と近づいてきました。今度のインカレは今までは違った良い結果を残せるように精進するつもりです。最後に、寒い中応援してくれたO.L.T部員ならびにOBの方々、隅々までサポートしてくださったコー子に感謝の意を表してこの文を終わりにしたいと思います。ありがとうございます。

がって前日とは少し雰囲気違っていました。あまり気にせずにイメージどおりの走りをする事ができました。途中、雪の上に残った足跡や後からきたランナーにも助けられながら、何とか終盤まで速いタイムで走ってこれたものの、残りの登りで全く足が上がりなくなり失速。最終的な結果は予選上位二名通過のところ三二位の人に。二位の人はラストコントロールからゴールまでで抜かされてしまったということでした。

インカレショート感想 川井 宏一(3年)

インカレは前日の夕方から雪が降り、当日の天気もトラインに着くまでは何とか持ちこたえていたもののトラインに着いた途端に雪が降り出し、一時的に吹雪いて安全確保のためにBファイナルと併設大会が中止という悪条件の中でのレースとなりました。レースはほぼ予想していたコースで、良い感触を持つてスタートすることができました。雪が一面に広が

順位	氏名	所属	所要時間
1	青木博人	東京3	0:26:54
2	禅洲拓	東北4	0:27:51
3	堀江守弘	東北3	0:28:02
4	久野雄介	東京3	0:30:04
5	宇田川雅令	東京4	0:30:07
6	楠本俊壮	京都2	0:30:14
18	蔵田真彦	東京4	0:37:42
男子予選一組			
15	田中淳一	東工3	0:26:46
27	菊澤恵三	東工4	0:28:53
男子予選二組			
13	川井宏一	東工3	0:25:00
16	藤野友祐	東工4	0:26:10
20	斉藤孝男	東工3	0:26:49
男子予選三組			
29	井川智史	東工4	0:29:39
31	久保田芳弘	東工2	0:29:55
41	徳江勇樹	東工3	0:32:20

つばめ会活動報告

つばめ会(および東工大 OLT)の一昨秋からの活動を簡単にまとめました。

二〇〇一年一〇月つばめ

会総会開催 役員交代。奥田健史さん(一六期)を幹事に選出。また、幹事が一六期、二〇期と、一気に若返る。

同年一二月加賀インカレ ショート 大会プログラム

またまたつばめ会の広報様から原稿の依頼があったので、投稿させていただきます。しかし、いったい何を書いたらよいか分からないというのがまずあります。そこで散々ネタを考えてあげ、結局、現在の部の様子についてざっと書くというところに落ち着きました。つばめ会総会でも、今の現役様子がまったく分からないとの意見も出たことです。

現在、一年目9人、二年目10人、三年目7人、四年目9人(多分合っているはず)の計35人の部員+コーチやOBの方々が活動しています。今年にはほぼ毎週の日曜日、何かしらの行事に参加しています。10月~12月の日曜日のう

に広告掲載作成(二〇期)。蔵田真彦選手(三)がシールドに選出された。Aファイナルに進出。

同年一二月OLT冬合宿に一三名ものOBが参加(過去最多)。合宿は大雪にたたられた。

二〇〇二年三月矢板インカレ 大会プログラムに広告掲載(作成二〇期)。ま

た、飲食物を差し入れ。蔵田真彦選手がMEで八位。リレーは二年ぶりの七位。

大勢のOBがインカレに応援にかけつけた。矢板インカレをもって、丹井基史氏(一九期)、仁多見剛氏(二〇期)、川俣智(二〇期)

が東工大OLTコーチ退任。新部長に田中淳一氏(当二年)が就任。副部長は斉藤孝男氏。また、三月で仁多見剛氏がつばめ会総務部長を退任され、後任に岡

部健志(二二期)氏が就任された。

同年四月会報発行 一六ページ。新年度のコーチに倉澤勝美氏(二〇期)、松澤理子氏(二二期)、岡部健志氏(同)が就任。

同年六月名簿の更新を開始。蔵前工業会の名簿と照合作業ショートセラ。飲食物を差し入れ。免除者、緑り上げ通過者含めて九人がインカレショート本戦に進出。

ち、何も行事が無かった、もしくは、いまのところ予定がないというのは2回だけです。みんな、金欠と体力欠とレポートに追われつつも参加してくれていま

す。これは部長にとって、そして、部にとって非常に

東工大OLT部長の言葉

田中 淳一(二二期)

ありがたいことだと思っ

ていますし、これなくしてはオリエンテリング部であると言いたいと思います。

また、日曜以外の活動水曜練習やテクニカルミテイングも行って、フルに参加したら、もう盛りだくさんです。オリエンテリング以外

の活動も活発に行われており、主なところで毎年行われる工大祭に出店をしました。1、2年生を中心

に今年は3店舗やきそば、フランクフルト、広島風お好み焼き)出店して、かなりの利益を上げることがで

きました。

次に、普段の部室の様子について書きたいと思いま

す。今年の春、新歓をするにあたり、畳を干してカーペットを総取り替えしたせいか、より居心地の良い(けっして「住み心地の良い」ではない)スペースになっていくようです。麻雀

同年九月プレセラ 飲食物を差し入れ。免除者とおわせて九人が関東インカレに進出。

同年一〇月東工大OLT杯 新人クラスの賞品を贈呈。運営は二二期。蔵田真彦選手(四)が三年連続三

度目の優勝。二位は徳江勇樹選手(三)、三位は前田裕太選手(二)。また、奥田健史氏がつばめ杯を獲得(初)。飯村杯は行われず。鰐部行教氏結婚式 祝電を贈呈。また、今後つばめ会

としては祝電、弔辞等は続けていく方針。つばめ会合

宿 参加者は一七名。同年一二月菅平インカレ ショート 大会プログラムに広告掲載作成(二期)。蔵田真彦選手(四)がシールドに選出された。飲食物を差し入れ。つばめ会総会

同年一二月関東インカレで蔵田真彦選手が優勝。インカレには四人が進出。

コーチの言葉 倉澤勝美(二〇期)

なぜ去年ではなく今年コーチになったのか。それを語るには30行では短すぎるのだが。

その1つの理由として。ちょうど2年前、OLTに対するありとあらゆる不満が爆発した。結局そのときはOLTを引つ掻き回すだけで終わってしまった。何も変わらなかった。あのときできなかったことをしようとしているのかもしれない。OLTに迷惑をかけてしまった償いとして。

そして、今年、OLTは変わりつつある。

変えるということはすなわち自分を含め過去の否定。ただし全てを否定するわけではない。OB諸氏の偉業もなかにはあるだろう。しかし行動を起こせば必ずどこかにひずみが生じる。積もり積もったひずみは大きくなり、もはや受け入れることもできなくなってきた。

変わるということにはエネルギーが必要である。そのエネルギーはとてつもなく大きい。そしてその影響はいろいろなところにはやはりひずみとして現れてくるだろう。それらをすべて受け入れることができればOLTは1つ前に進むことができるだろう。

ML ホームページについて

つばめ会会員間の連絡手段の1つとしてつばめ会 ML(メーリングリスト)を立ち上げています。大会情報・観戦記、同期会・飲み会の連絡、近況報告など、自由に使ってください。メールアドレスは tsubame@egroups.co.jp です。ご不明な点がございましたら、管理者の當銘直告氏(toume@milk.freemail.ne.jp)までご連絡ください。この ML に関するホームページ(登録メンバーのみ) <http://www.egroups.co.jp/list/tsubame> にもぜひアクセスしてください。

また、つばめ会およびつばめ会湘南支部のホームページが稼動中です。ぜひご覧ください。

つばめ会のホームページ(作成者: 円井基史氏(19期))

<http://www.geocities.co.jp/Athlete-Olympia/1614/>

Forest Green(つばめ会湘南支部のホームページ)(作成者: 佐々木順氏(13期))

<http://www3.plala.or.jp/junkun/>

東工大 OLT のホームページもリニューアルしました。ぜひアクセスしてください。

東工大 OLT のホームページ(作成者: 小川千隼氏(22期))

<http://titolt.hoops.ne.jp/>

久しぶりに OLT の大会へ参加してみたい方は、つばめ会 ML または川俣までお問合わせください。また、以下のホームページをおすすめします。

Orienteering.com

<http://www.orienteeing.com/index-j.htm>

森を走ろう!

<http://www02.so-net.ne.jp/~forest/>

編集後記

ようやく会報を形にすることが出来ました。発行が遅れてしまいまして申し訳ございませんでした。普段の WORD 形式と違った形でやってみようと思ったところまではよかったのですが、修士論文と学会発表のダブルパンチが非常に効果的でした。

そんなこんなで、学会で北大に行きました。雪に埋もれた北大はなかなか印象的な光景でした。OL やってて北大はなかなか勝てないイメージがありますが、キャンパスは完敗です。クラーク像、ポプラ並木、、、。生協では冷蔵庫等の家電器具や野菜、肉、魚などもあり、北大の先生は「主婦が生協に買い物に来て」困っているようでした。

北海道は、食べるものは旨い、スキー場の雪質は最高、と。なかなかでした。帰りの飛行機が例のシステムトラブルのために酷く遅れてしまったのも気にならないくらいでした。

行って見て北大のファンになってしまいました。インカレでは東工大に頑張ってもらいたいものです。

東工大オリエンテーリング OB/OG 会 つばめ会 会報 Slope

2003 年 1 月号(第 2 巻第 3 号 通巻 14 号)

発行者: つばめ会

編集者: 川俣 智(20 期: つばめ会広報部長)

連絡先: kawamata@mhd.es.titech.ac.jp

つばめ会ホームページ URL: <http://www.geocities.co.jp/Athlete-Olympia/1614/>